

平成25年 新年のあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、ビデオではありますが、ひとことご挨拶申し上げます。

東日本大震災から1年10カ月になります。仮設住宅にお住まいの方々は減りましたが、昨年12月時点で、故郷を離れて暮らす避難者は32万人以上います。ライフラインなどは原発警戒区域を除いてほぼ復旧していますが、港や農地などの復旧はまだです。

しかし、まだ2年もたっていないのに、日常に追われ「3.11」を忘れそうになることがあります。長く記憶にとどめ、現状を知り、今からでも大学人として出来ることはいかと思ひ続けなければならないと思っています。

さて、昨年も色々なことがありました。8月に中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換にむけて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」が出されました。その中では「予測困難な時代において、地域社会や産業界は、今後の変化に対応するための基礎力と将来に活路を見いだす原動力として、有為な人材の育成や未来を担う学術研究の発展を切望している」と書かれてあります。また「予測困難な時代において、我が国にとって今最も必要なのは、将来の我が国が目指すべき社会像を描く知的な構想力である。(中略)未来を創り出すために、大学ができることは計り知れない。新しい知識やアイデア、人と人とのネットワークに基づいた新しい時代の見通しとその中で大学の役割を、大学は自らの言葉で国民と世界の人々に対して語り、働きかけることができる」とも述べています。

未来を創り出す大学の役割は極めて重いものです。同時に、「大学は自らの言葉で国民と世界の人々に対して語り、働きかける」ことも私たちに課せられた重要な仕事です。

大学改革は痛みを伴うものですが、大学改革に対する社会の期待が大きいことを私たちは改めて再認識する必要があります。

明るい出来事や話題もありました。山中伸弥先生がノーベル生理学・医学賞を受賞、ロンドンオリンピックでの日本選手の活躍など私たちは勇気をもらいました。

静岡大学においても、いい出来事が多数ありました。環境報告書が「環境コミュニケーション大賞」の環境配慮特定事業者賞を受賞、男女共同参画の取り組みが静岡県の知事褒賞を受賞、SSC(静岡大学サポーターズクラブ)の発足、インドネシア同窓会の発足、博士キャリア開発支援センターの新設、附属浜松中学校の文部科学大臣表彰受賞などです。学生の活躍では、棚田研究会が農林水産省の優良事例として認定証が授与されました。馬術部の神戸佑太(かんべゆうた)さんは、全日本馬術選手権に本学から35年ぶりに出場しました。本学の馬術部は県内で唯一の大学馬術部です。

それぞれの取り組みには、表には出ないプロセスや多くの困難があったでしょう。改めて敬意を表します。

財政や大学を巡る情勢は厳しいものがあります。大学のミッションの再定義の動きも、工学系、教員養成系で始まっており、人文社会科学系、理学系、農学系、複合領域としての情報系についても、順次おこなっていくことになります。これを機会に、静岡大学の存在意義を高めていけるように、英知を集め、みなさんとともに難局を乗り越えていきたいと思っています。

今年もどうぞよろしく願いいたします。